

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00407

研究課題名(和文) 第一次大戦期の思想潮流から見る20世紀初頭のイギリスの児童文学、舞台芸術

研究課題名(英文) Children's Literature and Performing Arts in Early 20th-Century Britain from the Perspective of National Ideology during World War I

研究代表者

岩井 学 (Iwai, Gaku)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：70369859

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：第一次大戦初期に構想されたヴァイオレット・パーン脚本、エドワード・エルガー作曲の音楽劇『スターライト・エクスプレス』およびその原作アルジャーノン・ブラックウッド『妖精の国の囚われ人』、また大戦末期に執筆されたD・H・ロレンスの戯曲『危機一髪』を中心とし、20世紀初頭のイデオロギーや第一次大戦時のナショナリズム、また階級表象といった観点から分析した。一見すると現実世界とは関係のない娯楽作品である『スターライト・エクスプレス』や、時代に背を向けていたロレンスのような作家のテキストにも、第一次大戦時におけるイギリスの置かれた状況が図らずも刻印されているのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一次大戦期のファンタジーや娯楽作品など、戦争とは一見関係のないこれらのテキストに刻まれたイデオロギーの痕跡を分析し、芸術作品とイデオロギーとの単純化できない複雑な相貌を明らかにすることで、現代の我々が社会の諸相を読み取る時の一助とすることができる。無垢を装った作品に反動的なイデオロギーはどのように入り込むのか、一見楽観的な作品の中に、戦時の状況や厭戦気分はどのように入り込んでいるのか、歴史的な背景や文化的な諸相を踏まえ過去の作品を分析することは、現代社会に対する我々のリテラシーを高めることに繋がるのである。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on such works as The Starlight Express (1915), a music drama written by Violet Pern and composed by Edward Elgar, and its original novel, Algernon Blackwood's The Prisoner of Fairyland (1913), and on D. H. Lawrence's play Touch and Go, written around the Armistice. I analyse them mainly from the perspective of ideologies of the early 20th century, nationalism during the First World War, and class representations. This analysis reveals that the text like The Starlight Express, a work of entertainment seemingly unrelated to the real world, and those by writers like Lawrence, who is considered subversive and revolutionary, are also inscribed with the dominant ideologies in Britain at the time of World War I.

研究分野：20世紀イギリスの文学と文化

キーワード：第一次大戦時の芸術 D. H. Lawrence Algernon Blackwood The Starlight Express A Prisoner in Fairyland class representation

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

これまでモダニズムやポピュラーフィクションといった 20 世紀初頭の文学テクストを、社会的・政治的文脈に位置づけ、それらのイデオロギー的側面を研究してきた。具体的には (1) 20 世紀初頭に出版された学校用教科書と第一次大戦期の英国におけるナショナリズムの形成、(2) 第一次大戦中から戦後にかけて広く読まれていたポピュラー・ロマンスと、いわゆる純文学のテクストとの比較・分析、(3) 第一次大戦中から 30 年代における労働者階級出身および中産階級出身の作家による労働者表象、(4) 第一次大戦期のテクストにおける、ナショナリズムとニュー・リベラリズムの言説、といったテーマで研究を進めてきた。

そのような中で、これまで研究の盲点となっていた子供向けの物語や舞台芸術に、当時の思潮が様々な形で入り込み、支配的言説形成への加担や反発が刻印されているのではないかと考えに至った。これらの研究の背景には、約 100 年前のイギリスの社会およびメディアを取り巻く状況が、現代の社会情勢と意外にも似通った側面があるとの認識があった。

2. 研究の目的

第一次大戦期を中心とした 20 世紀初頭には、ナショナリズムやニュー・リベラリズムといった思想やイデオロギーが複雑に絡み合い、イギリス社会の諸相を形作っていた。それゆえこの時期に執筆された文学テクストは、時に作者の意図により、そしてまた時に作者の意図とは無関係に、新たな思想潮流や国家イデオロギーの言説が入り込んだ、重層的なテクストとなっている。本研究では、学校用教科書として大戦中の 1915 年に編纂された J・M・バリーの『ピーターとウェンディ』(J. M. Barrie, *Peter and Wendy*)、大戦中から戦後にかけて編纂された児童文学アンソロジー、またヴァイオレット・パーンが脚本を執筆し、エルガーが音楽を付けた児童演劇『スターライト・エクスプレス』(Violet Pearn, *Starlight Express*)といった、これまで研究の盲点となっていたマイナーな子供向けの物語、舞台芸術を取り上げ、これらテクストに織り込まれた言説を分析する。

また 1918 年、第一次大戦終結直前に執筆された D・H・ロレンスの戯曲『危機一髪』(D. H. Lawrence, *Touch and Go*)を取り上げる。この戯曲には、ロレンスとしては珍しく階級間の政治的闘争が中心的テーマとして描かれている。この戯曲における登場人物たちの表象を分析し、一見中産階級に批判的に見えるテクストの中に中産階級のイデオロギーがどのように入り込み、テクストのダイナミズムを生み出しているのか明らかにしたい。

本研究では、第一次大戦期を中心とした 20 世紀初頭に執筆された子供向けの物語、舞台芸術といったマイナーなテクストを分析の中心とし、第一次大戦前から戦間期にかけて、ナショナリズムやニュー・リベラリズムといった時代潮流がどのようにこれらのテクストに作用していたのか、そしてこれらのテクストが国家イデオロギーの形成にどのように寄与したのか、あるいは逆にそれに亀裂を入れるような言説がどのような形で刻み込まれているのかを明らかにすることが目的である。

3. 研究の方法

これまでに収集した資料や知見を生かし、対象となるテクストを分析する。コロナ禍となったため、計画していた渡英しての Oxford University Press での資料調査、British Library での雑誌を中心とした資料調査、国際学会での発表などは計画通り実施することができなかった。

4. 研究成果

(1) アルジャーノン・ブラックウッド『妖精の国の囚われ人』からパーン = ブラックウッド = エルガー『スターライト・エクスプレス』へ

アルジャーノン・ブラックウッドの小説『妖精の国の囚われ人』(Algernon Blackwood, *A Prisoner in Fairyland*, 1913)およびそれをもとにヴァイオレット・パーンが脚本を執筆し、エルガーが音楽を付けた児童演劇『スターライト・エクスプレス』(Violet Pearn, *Starlight Express*, 1915)を大戦前夜の社会的・文化的文脈に位置付け分析し、現実の世界とは一見無縁の幻想世界に刻まれた、当時の思想潮流やイデオロギーについて分析した。

アルジャーノン・ブラックウッド『妖精の国の囚われ人』は、批評家たちからの評価はあまり芳しいものではない。確かにこの作品は冗長で、またある意味作者自身の願望充足的な側面もある。しかしこのテクストは第一次大戦前夜に胎動しつつあったナショナリズムに安易に同調しない面を持つ。この物語は大人 / 子ども、都会 / 田舎といった伝統的な二項図式を一見承認し、受け入れているように見える。しかしながらこのテクストは、そのような二元論的世界観の欺瞞性を暴いていく。単純な二項図式を解体し、無効化していくのであ

る。例えば、舞台となっている田園を一見讚美しているように見えながら、このテキストは村全体が都会の富の恩恵を受けていることを示唆し、田園が無垢で汚れない理想郷ではなく、貨幣経済の中に組み入れられた資本主義世界であることを露にする。すなわち『妖精の国の囚われ人』では二元論的構図が登場人物や語り手によってたびたび提示されるが、テキストは時にそれを否定し、都会と田舎の相同性を浮かび上がらせる。つまり田舎は都会の対立物なのでなく、むしろ都会のマイクロコズムなのである。このように『妖精の国の囚われ人』は単純な二項図式を解体し、20世紀初頭のイギリスに見られた田園讚美の心地よいイデオロギーを否定していく。このテキストからは、大英帝国の衰退を感じ取りナショナリズムへと向かいつつある、19世紀末から20世紀初頭にかけての時代の思潮との齟齬を読み取ることができるのである。

この小説をもとにパーンやエルガーによって音楽劇『スターライト・エクスプレス』が制作された。舞台化にあたっての舞台や登場人物の改編により、この音楽劇には原作とは異なり二項図式的な作品となった。またこの音楽劇自体には戦争を直接示唆するような内容は見当たらないが、しかし戦争とは対極にあるかのようなこの作品にもその影はまわりついている。それは作品創作上の経緯、当時の社会的・文化的背景、制作者や俳優たちの従軍などに窺うことができる。ただこの音楽劇の中味に関しては、一見戦争とは無縁の世界を描いているように見える。戦争への言及は一切なく、現実世界から隔絶した田舎の村人たちの滑稽なやり取りや、妖精の国を訪ねる子どもたちが描かれるファンタジー作品である。

しかしながらこの『スターライト・エクスプレス』の牧歌的世界の表層の下にも、戦争の影が刻印されている。物語の中心に据えられたブルセル村の狂騒そのものが、戦争のメタファとして描かれている。そしてこの戦争のモチーフを補強するようにワグホーン婦人が登場する。不在の身内を待つ女性という設定は戦時下を強く示唆するが、さらに原作にはないクリミアという地名が加えられたことで婦人の兄がクリミア戦争に従軍したことを連想させ、戦時下への引喩が一層強調される。また親戚からカムデン家への贈り物のエピソードには、原作とは異なる意味合いが与えられている。戦時下を思わせるブルセル村への贈り物のエピソードは、このような状況において援助物資はせいぜい一時しのぎにしかなりえないことを示す。それは根本的な解決にはならず、和平をもたらすにはもっと根源的な人々の「共感」が必要なのである。以上のように、『スターライト・エクスプレス』は一見現実世界とは遊離したファンタジーであるが、その舞台となったブルセル村を戦時下における銃後のメタファと取り、そこに平和がもたらされる物語として読み解くことができる。この音楽劇には戦争への様々なアリュージョンがちりばめられており、戦時下の社会状況が滲み出ているのである。

(2) 『危機一髪』における階級表象とブルジョア神話

D・H・ロレンスの戯曲『危機一髪』(D. H. Lawrence, *Touch and Go*)は1918年、第一次大戦終結直前に執筆された。階級間の軋轢や葛藤はロレンスが常に描くテーマであるが、それは多くの場合文化的な摩擦である。しかしこの戯曲には、ロレンスとしては珍しく階級間の政治闘争が中心的テーマとして描かれている。ジェラルド・パーロウは、典型的な炭鉱経営者として造形されている。彼は父親の慈善的な経営手法を拒絶し、鉱山の機械化による最大限の利益追求に邁進する。このことは『恋する女たち』のジェラルド・クリッチを想起させるが、彼とは異なり、パーロウは労働者と対立する炭鉱経営者という役割に限定されている。

パーロウに代表される、この戯曲で提示される炭鉱経営者像は、20世紀初頭イギリスに典型的に見られるものである。それはロイド＝ジョージの人民予算キャンペーンでの演説や自由党の政治家でジャーナリストでもあったC・F・G・マスターマンによる記述などに見られるものに酷似している。

これに対し『危機一髪』における炭坑夫には複層的な表象がなされている。炭坑夫たちは、一方で当時の典型的な階級表象がなされている。彼らには固有名や個人としての人格が与えられず、「声」として登場する。これは支配階級による労働者階級の典型的なイメージであり、鉱夫たちは「絶望的に卑小な人々の大群」であり、「愚かさ、勇気、真の理解力、生活の知恵」を欠いた「扱いにくい怪物のような存在」であると語られる。

しかし一方で、炭坑夫たちにはギリシアの悲劇における「コロス」に類似した役割が与えられている。彼らは主要キャラクターたちの論争の目撃者となり、コメントや道徳的・社会的な態度を表明する。また彼らは、主要登場人物たちの発言に応えたり、彼らを励ましたり、彼らの発言を中断したり、人気のあるバラードや第一次世界大戦の有名な歌を歌う。彼らの存在は場の緊迫感を高め、また彼らは物語の一部の展開を制御する役割を果たすのである。

また『恋する女たち』との多くの類似点が指摘される『危機一髪』であるが、前者に登場しないキャラクターも存在する。それはジョブ・アーサー・フリーアである。彼は炭鉱組合の秘書として登場する。これは『チャタレー』初稿の森番オリバー・パーキンを想起させる。一方で、ジョブ・アーサーは芸術家の感覚を持ち、洗練、文化、作法を愛するとされている。これは『チャタレー』最終稿の森番オリバー・メラーズを思い起こさせる。このように、典型的な表象がなされている中産階級とは異なり、『危機一髪』の労働者階級には一方で当時

の労働者像が付与されつつも、その枠には収まらない役割が彼らには付与され、その後の口
レンス作品の中心的キャラクターへと繋がっていくのである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 岩井学	4. 巻 173
2. 論文標題 夜空を見上げ、飛行船ではなく星を見る--アルジャーノン・ブラックウッド『妖精の国の囚われ人』からパーン=ブラックウッド=エルガー『スターライト・エクスプレス』へ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 甲南大学紀要. 文学編	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14990/00004437	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Gaku Iwai
2. 発表標題 From Touch and Go to Lady Chatterley's Lover: Class Representations and the Bourgeois Myth
3. 学会等名 The 15th International D. H. Lawrence Conference (Taos) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------